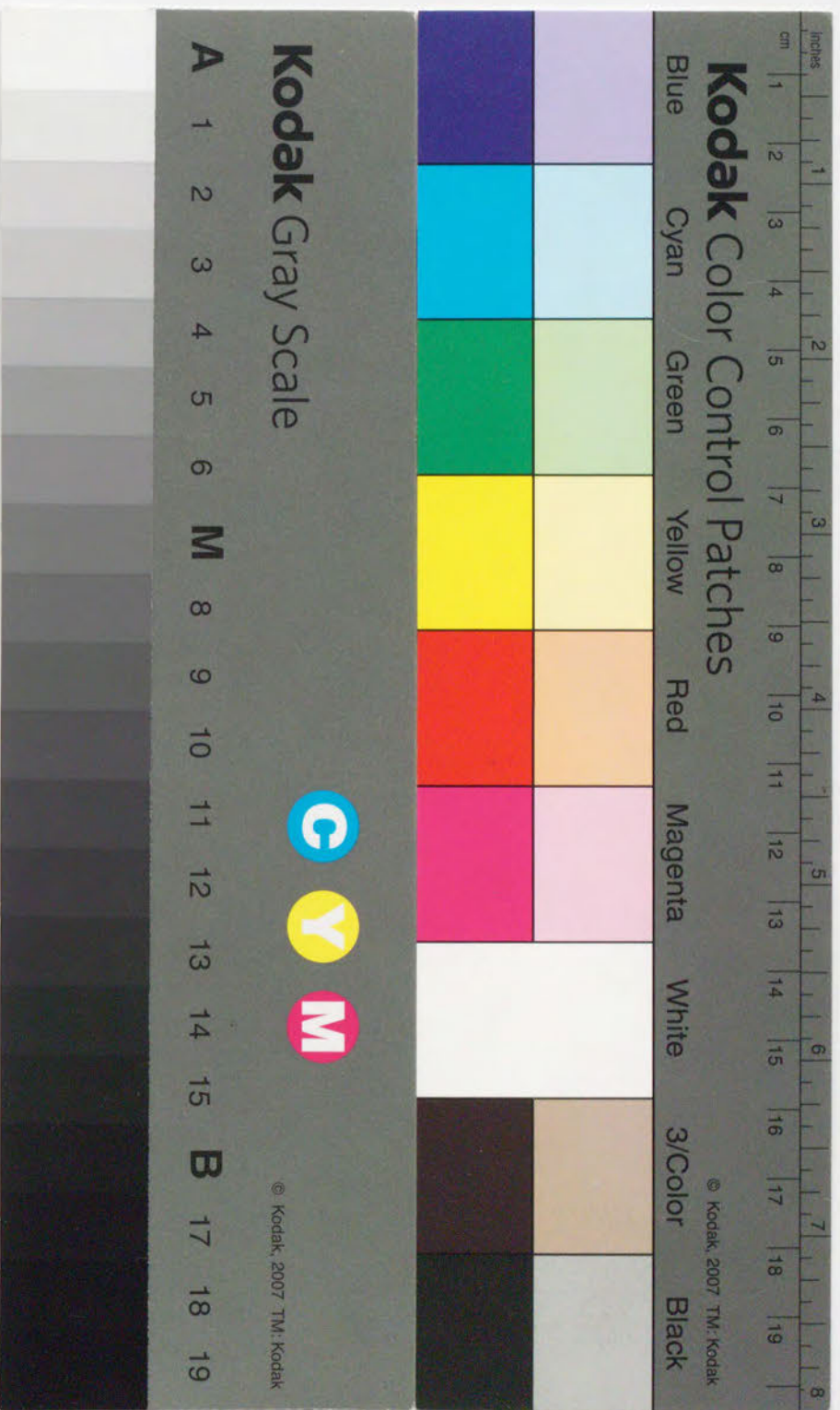


二十四孝序

父母子とけし鞠拊長育の恩徳厚く
人ふは其報人を欲せんども昊天撫り
明く勞して竭べうらざるれうらかり
に居上申の孝子と画にる児童乃
玩弄不備へ将孝と教るまうけ
るぬるれ月ゆ年ゆあうそ
さまやるまうそ
穽ふもかきく



なりしはさるるに辯は東我哉斗
 ぬのもふまゝや。今とていふこの情
 とくはあゝその力の自在なるや。
 実ふもいつらんとおもふもいづら。
 まはるも學藝くもさうりせ乃
 幸なりん。

文化戊寅

きね月

江陵山人誌



孝充傳信

耀昔名傳千載

愈恭

小林高悦題



舞

嗣堯登寶位孝感動天心

大舜至孝如人

とくは

まゝとて入る。かへおぼ
てゐる者なれど、

とがゆへに
五

とくくやう。大勝山や
とくくやう

孝の心
以て之を
事ふべし

け年諸をといり

耕作のつとめ



る、しう
たつ、とく
時の天子と
いふ

竟王とすなりけり
あふひめぞい

女丹の二の如く
愛王孫の老け世に

まゐるゝきじに及ぶ

つとよの姫君ひめぎみとささる
満みち（衆）とむして天下とゆ

ふくみとほれたる土

民の子何ぞ天^{てん}にやう々
と^と降^{くだ}り玉^{たま}の^{こころ}愛^{あい}を

中玉を授け舞王とす

天下を納めんとす

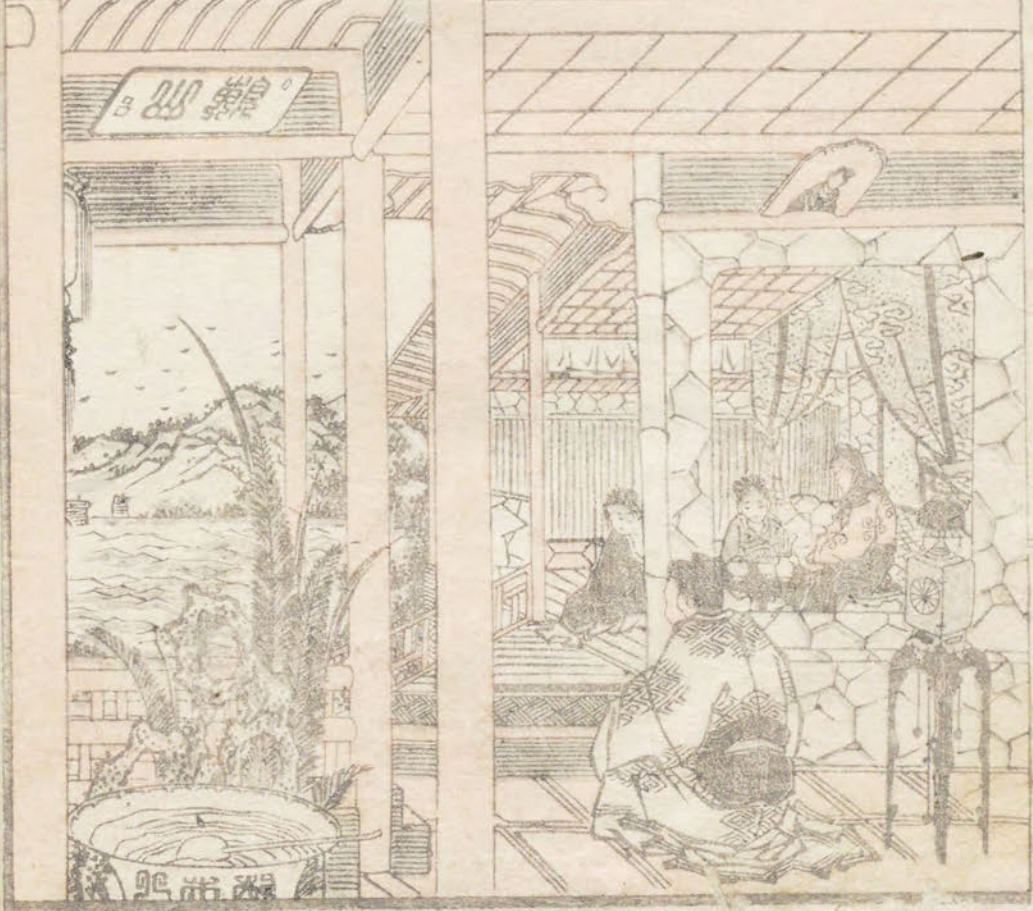
人々を以て

東武正徳三年

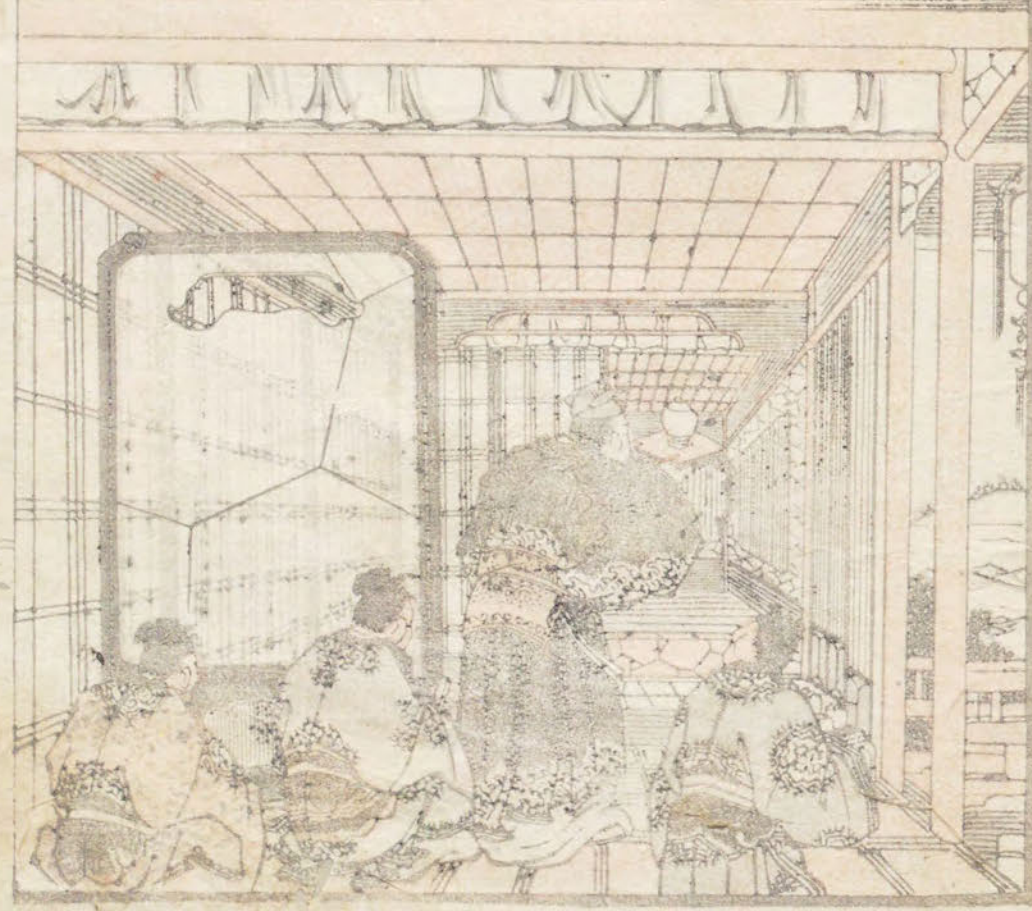


○ 漢文 帝

仁孝臨天下 魏々冠百王
 漢廷賢母 湯茶必親嘗
 漢の文帝は多祖の御子
 うり御初名は恒とやま
 王。御母の薄之氏なり
 まりく。其の食事は
 まいらでる時へ先づ
 うききこめ。雀の卵を
 御母もまじくされ
 けてけみうごの孝を
 くあり。また吏。陳
 平用勅うごへる智勇



の陛下にあらざるめ
 漢廷は正統なり
 まりて孝の及上
 より下萬民と人
 事ありきこと
 ありて孝の及上
 上る所ありき
 ありきも漢の
 の孝に孝の及上
 世ありきこと
 氏ありきこと



示

須臾春筆出
天意報平安

父と母と

食事の事いふがうりや

頃ころももるるよよにに尹いん氏しややとと

きし今ふけのとち羅冬のゆゑいすろ

母ハハ

来るの争の時ぞ

母の乃どとてけり
なり

天のいぬのうへに
ぎるるうのうへに

母ふてまうりなねが

五郎宗が老翁の海老とて

筆



蘭

刻木為父母形容存新

寄言諸子姪聞早孝其親

下蘭々内の壁に

つて母ふやれ長き

木像ふはくりしる

仕る夜ゆるあつて

木像の面と火すて

うりふかこの

よりやうで勝無

と通ぬれあまの

色自く刺さる

くあつて大

にたれ下蘭も

木像と大

三年の

とさるれ

の道て木像

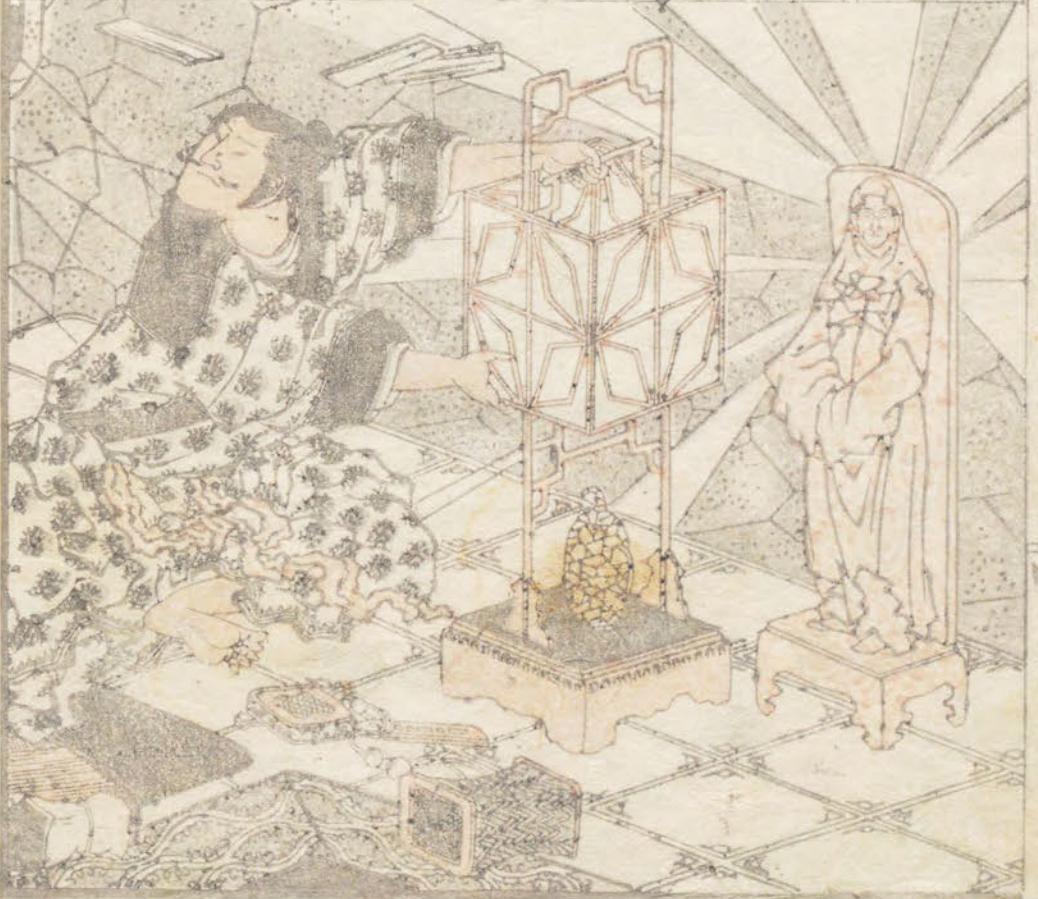
帰るる

めの

流き

其の

か





○曾參母指斃方啖兒痛不禁眉新飯來晚骨肉至情深

曾冬（しんとう）たる時（とき）中（なかつ）入（い）新（あらた）よりふめはる母（はは）留（とど）まりて居（ゐ）るりたるふ
 まより（より）き友（とも）来（き）たるふもてはる（はる）母（はは）留（とど）まりて居（ゐ）るりたるふ
 家（いへ）ま（ま）月（つき）より（より）なれふ（なれふ）ふ（ふ）ま（ま）る（る）せ（せ）は（は）る（る）冬（ふゆ）を（を）年（とし）く（く）ま（ま）じ（じ）と（と）母（はは）自（みづか）
 う（う）指（さし）と（と）め（め）る（る）冬（ふゆ）を（を）ふ（ふ）は（は）る（る）冬（ふゆ）ときりて（ときりて）あ（あ）る（る）ふ（ふ）より（より）ふ（ふ）ひ（ひ）な（な）さ（さ）づ（づ）は
 たる（たる）経（けい）ふ（ふ）い（い）と（と）な（な）ふ（ふ）う（う）と（と）な（な）れ（れ）ば（ば）母（はは）あ（あ）り（り）と（と）な（な）れ（れ）ば（ば）と（と）は（は）る（る）ふ（ふ）より（より）
 ば（ば）る（る）の（の）で（で）い（い）ゆ（ゆ）び（び）と（と）う（う）と（と）な（な）る（る）が（が）遠（とほ）き（き）山（さん）津（しん）より（より）も（も）。此（こゝ）ふ（ふ）と（と）な（な）る（る）
 ち（ち）あ（あ）ん（ん）ど（ど）が（が）存（ぞん）心（しん）ふ（ふ）く（く）た（た）ゆ（ゆ）え（え）ふ（ふ）親（おや）の（の）こ（こ）ろ（ろ）ご（ご）う（う）ん（ん）つ（つ）で（で）い（い）ち（ち）あ（あ）り（り）と
 ち（ち）め（め）い（い）と（と）な（な）る（る）ふ（ふ）存（ぞん）心（しん）あ（あ）り（り）を（を）親（おや）に（に）あ（あ）る（る）ふ（ふ）や（や）こ（こ）の（の）あ（あ）る（る）情（なさけ）々（々）の（の）
 ち（ち）と（と）い（い）ち（ち）熱（あつ）く（く）な（な）る（る）冬（ふゆ）の（の）こ（こ）と（と）な（な）る（る）ふ（ふ）異（い）な（な）る（る）て（て）こ（こ）ろ（ろ）と（と）こ（こ）ろ（ろ）と（と）な（な）る（る）ふ（ふ）上（うへ）
 と（と）い（い）ち（ち）あ（あ）り（り）ふ（ふ）う（う）の（の）事（こと）世（よ）の人（ひと）や（や）よ（よ）と（と）な（な）る（る）ふ（ふ）と（と）な（な）る（る）ふ（ふ）り（り）と（と）な（な）る（る）ふ（ふ）

○ 王 祥

繼母在人間 王祥天下無

至今河水上 一斤卧水摸

王祥といけるは母と

りしる父後妻と求む

其名と朱氏といひ侍

母のせして父子の中と

由さぬふ言直て王祥と

父と悪はし侍れども服と

とせ侍ていふ孝心せと

ける母の人のなりしゆ

寒の母のききもめと

孝心せし生魚とて

おとひたる程子母孝

とふ所の川へいれり侍

されども嚴冬のそそ

る氷とちて魚とす

ていふふんとおのい

名とぬきて赤きとに

あり氷の上ふと魚と

りやなげきかほと

早に解明みて氷と

とけて魚とと漏ゆり

取て侍り母に奉るに

玉と氷とれ人のふ

る那るゆりやり



戲舞字嬌疑 春風動袿衣
又親開口笑 喜色滿庭闈

老來の年七十余まで
 ありの親と暮らしな
 りとほにありつにき衣
 服とすとい小唄のてく
 にもれ舞あそび二親み
 給ふしてとぶとはまづき
 こけとけなぬのてく
 ときこめきなる我はむん
 醫の自験と思はれおし
 なる人そのころとるね



先づ我^{われ}七十^{あま}五^い金^{かね}うぬれ
 年^{とし}よりてくるちうねる
 けくくる故^{ゆゑ}ふるなり
 さまて親^{おや}の足^{あし}をわづこ
 こ
 ゐの年^{とし}よりくるとこを
 だほく思^{おも}ひぬんとてやせ
 る又^{また}親^{おや}さちも年^{とし}あくる
 とされざるやうに各々^{それぞれ}
 減^くふるをなむといふこ
 るるやうにけくあたまと
 孝^こひうとれんて朝夕^{あさゆふ}の
 ことえふやうにとそいふ
 してていふにけくこと
 んや実^{じつ}に孝^このありけり





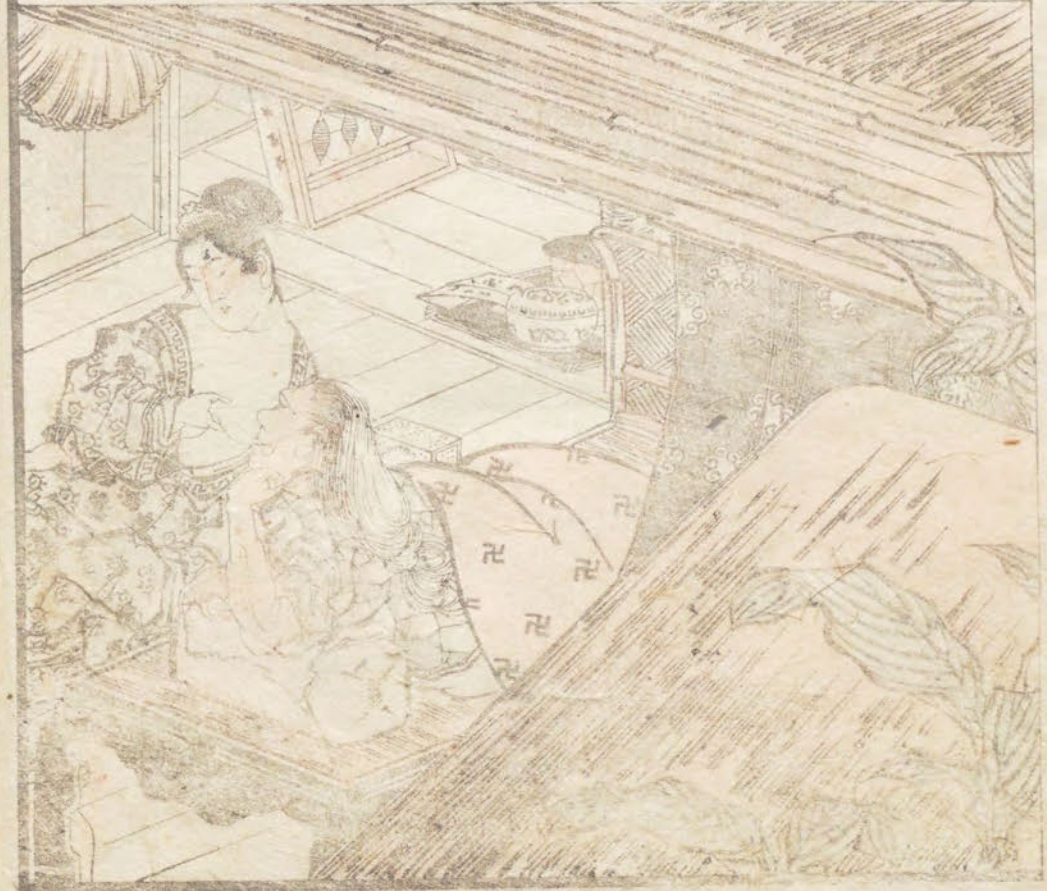
○晏詩 舍側井泉出 朝双鯉魚 子能知事 母婦更孝於姑

晏詩と母孝のうゑなり母事にはの水とてさぐりけり又ハ
 生魚のたまはてをく思ふ別あふ言付六七里をてゐるに
 水とてはめ魚のたまはすもよく個へ来せざる我時風をふあふ事
 月どくさりうを晏詩いつて去るさうても晏詩とてあふもさうさ
 なくねげよりあふとあふいふのふれとあせんとほくそ孝にせ
 里での心でしてよきとてあふさうていふいふでさふさうさ
 母と大いにおり家のくさうさ大なる池出来て清き水とて生
 うは二尾三尾が毎日おどり出さればよろこび取て母子とてさ
 あり更婦の孝とてうんとて天事よりりりさふなりん

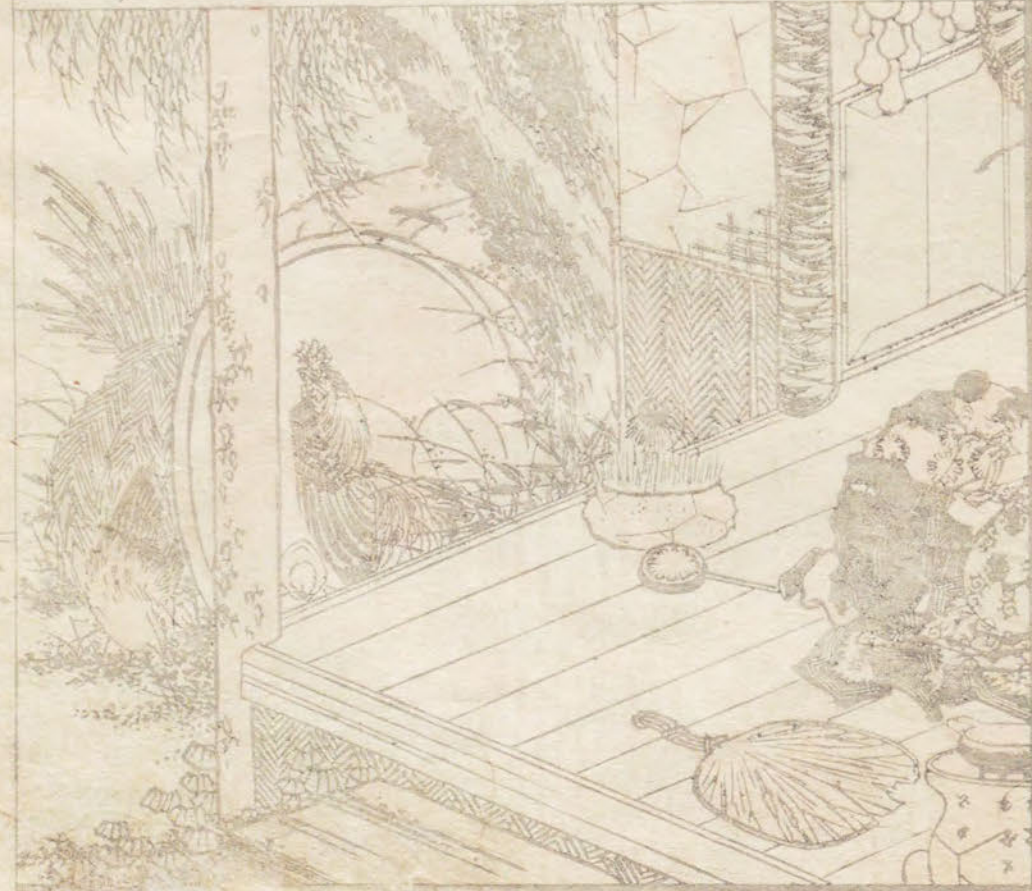
○唐夫人

孝敬崔家婦乳姑晨晡
此恩无以報願得子孫如

唐の夫人あまうとめの長孫
まへ年ふけて萬もてく
ぬけおらうろつ食を
ふけふけふと味い
ぬ乳けとふめ期
髪けつり。たうる腰を
でふ信ちふうくほ
長孫まへううらひ付
とぞお死とくわとい



一家一人のうづつ
るふかやが嫁まへの
年の恩と報せむ
死せんゆゆ
孫づきもよめまへの孝
とまのりものあま
南無とて
かすふまうとめ
うの古今まれ
とまこれとめ
まへとて孝の徳天
小威なりて子孫
とまのきまり
やみまへ





○揚香 深山逢白額 努力搏腥風 父子俱無恙 脱身纔甲中

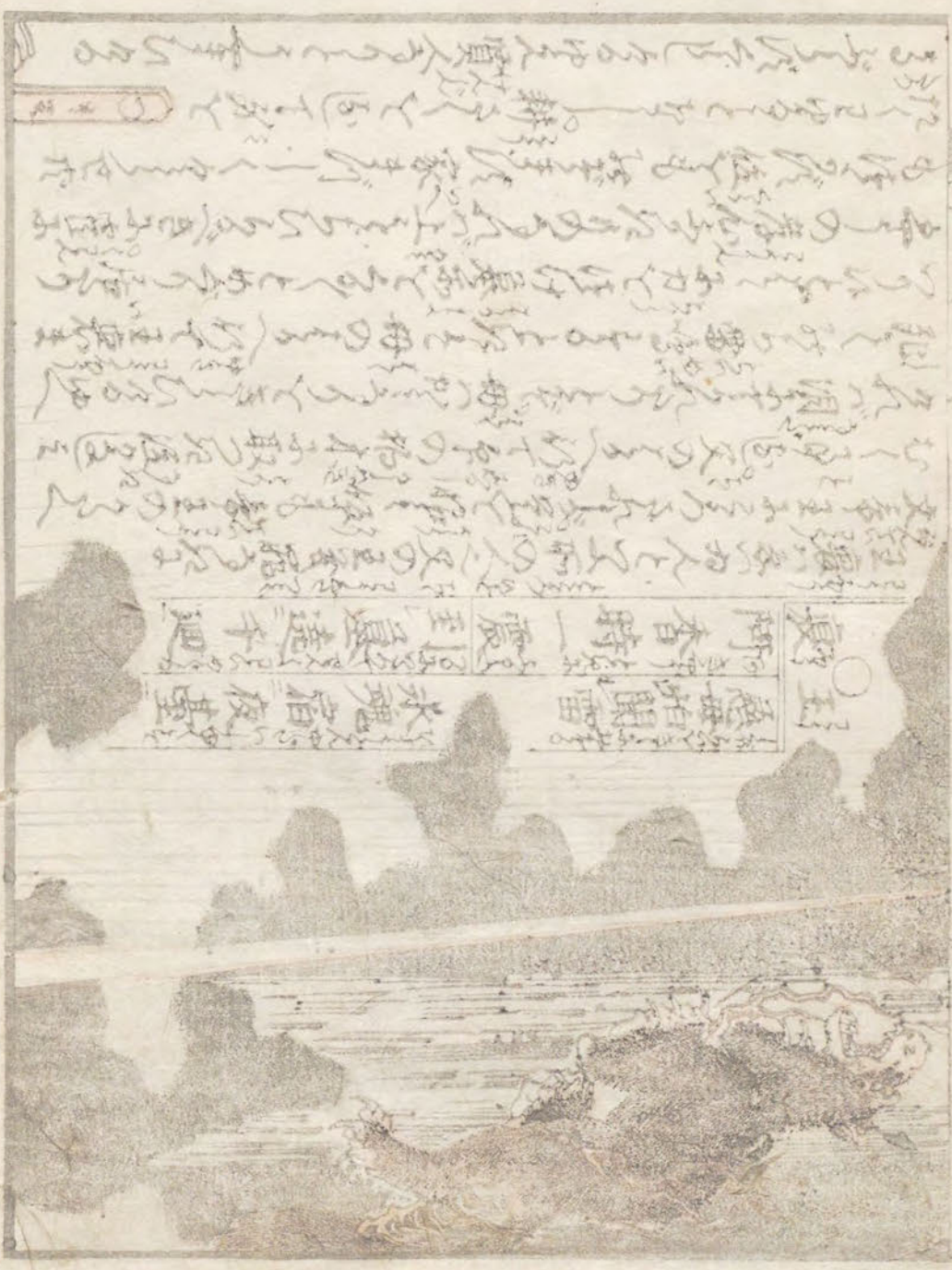
揚香父とてり山中とてりあむつの虎ふりたりとらまかことうじ
 芽とあいにまふ乳うんとん揚香初雅ごろあふみかまれ
 命とてりう人事とてりあむと虎と退人ととれどもとらまれ
 いりてかたがひがけまふ天と祥とてりあむと揚香が命は
 とらふりて父とてりあむと玉のまふとらまじとふりしてあふり
 々まふとてりあむとのやうとてりあむとてりあふりてあふり
 とびうらんとてりあむとてりあむとてりあふりてあふり
 考初のころあふりてあふりてあふりてあふりてあふりてあふりて



○董永

董永の母を病みて家においで奉る人にて耕作を以て
天姫酒上御織結債銭主孝感盡知名

董永といふは、母を病みて家においで奉る人にて耕作を以て、天姫酒上御織結債銭主孝感盡知名。とありて、月と日と地とより父老てあつても立たざるやうなる車をつりて、父成の世田のあせあせで中うひるが、娘ふ父やうに、て娘のいともうせぬもの、料定うたれぬふまうせ、己がやうりて十世の甥と、彌生女と、とりひき、夫より甥の元へ、けりて、そのの、美女を、董永が、妻に、とて、ある。の、つりて、と、娘す、れ、た、つ、て、甥の、と、と、あり、わ、い、く、な、に、て、月、の内、ふ、借、式、を、足、り、て、ま、の、う、十、世、又、と、と、い、ふ、れ、た、事、を、お、う、お、う、た、り、夫より、婦人、天上、で、失、り、を、て、お、う、け、り、し、て、孝、子、と、い、ふ、む、か、す、り



夏王
 蘇母拍關雷
 門香時一
 震王
 遠達千里
 水魂宿夜
 蘇母拍關雷
 門香時一
 震王
 遠達千里
 水魂宿夜



夏王
 蘇母拍關雷
 門香時一
 震王
 遠達千里
 水魂宿夜
 蘇母拍關雷
 門香時一
 震王
 遠達千里
 水魂宿夜



貪心供給埋兒願母存黃金天所賜光彩照寒門

計山學園

○朱壽昌

七歲生離母參商五十年

一朝相見面喜氣動皇天

朱壽昌字子休京兆人長七歲時父履孫の
 の人なり七歳の時父履孫の
 お復とより時壽昌母
 と去逝せり天より又十
 年が母と知りて
 父の父の父履孫と
 離て母と別ねふ出たり
 母ふりて三たびへくと
 より血を吐て経てお母
 とて天乃おれり
 て母ふりておれりとふく



ながきりりたる其心
 の切なりや天の神助
 けて母玉のころそ母
 逢たりそ時母のじふに
 余りふふ洞と流涙
 母恨るはがる孝心
 のも後藏せぬい事奉
 して元のとき實孫と
 け玉のころ母も
 孝もあらるころ
 なる親子のるの
 そあふにそのころと
 てもつとめてあ
 孝なりと時の人
 めぶるをわたりけ

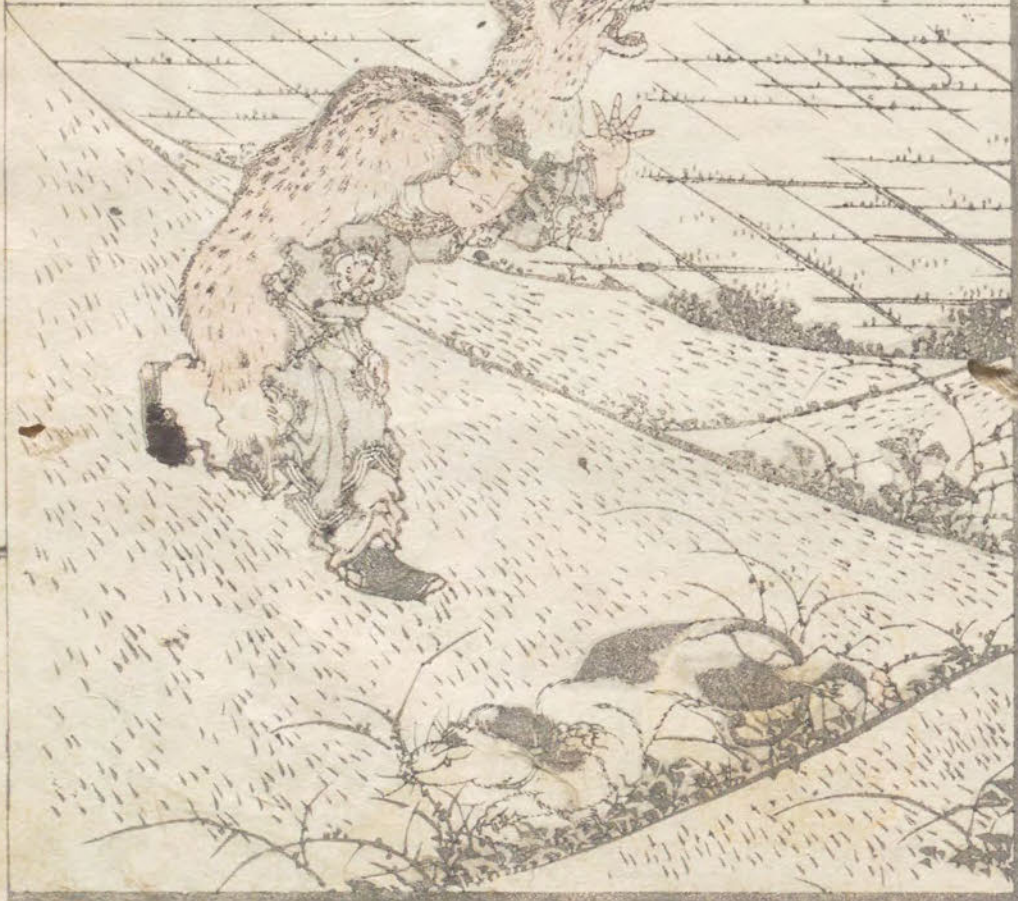


○ 刻子

老親恩鹿乳身掛褐毛衣
 君不高声語中帶笑飯
 刻子六國の今より父母
 おきてお眼でつづつて
 けふお麻の乳で用れはと
 刻子元より孝のふた
 魚父母の重とつづつて麻の
 中皮も永きとつづつて中
 刻子又中つて麻のむくじ
 中給れお麻の乳けとえ
 とくろる更難所きりて



鉄炮まわひうへんと
 刻子ことつて中つて
 猛者これいまの麻の
 らばはとつてお麻の
 うのこつてとお麻の
 とど親の重とつて
 おとつてお麻の
 刻子の志いれつて
 麻の乳とつてお麻の
 父母おつてお麻の
 せんくつてお麻の
 孝のふつてお麻の



○ 蔡 順

黒祖奉親闡 帝飢淚滿衣

赤眉知孝順 牛米贈君飯

蔡順の除害と云ふ所は
 父を養ふて母を中う
 その以てまゝうとていふれ
 乱と世に天下をたれ
 きんとするやるゆゑ食ふ
 小こぢい母と中あふ
 なるそくなく粟の實
 と拾ひとりて食ふのたよ
 里にたる世の中はこく
 より入と救ふたうさ



してせいのりのおくぬす
 人あまの蔡順と追ふる
 順が粟の實のむけいふと
 ぶゆいせざることをいふ
 といひてそのあてたづね
 くれむゆいなる老る母の
 舎ふあふなりと各
 なる盗人といふるを粟
 半の足をつらふなり
 解とれたせいのあふれ
 おろり母とむじく食ふ
 あつと念ても粟半たり
 つねに二期のる腹ふ満
 まとぞ孝順のある一



庚コ
黔セン
婁ロ

到縣未旬日
掃庭摘疾深

願將身代死
誓啟憂心

庚辰妻の病の時之令
 きりてんじ正清あり
 元服後と云ふの言へ
 といふおち元服後い
 たり未十日もあらず内
 傷ふ胸さびける程父の
 中を移すとあは寢と様
 てよりなるもして父病ふ
 子よりいふほどるき
 け遠くまねき其病
 作て見せ吾母と為し



病人の大役となつて
 て耳く苦々が病に思
 とふ中をなとまうと
 て父の大役ともひるふ
 耳く若くもざんば夫お
 どうき。医師の言葉も
 お達もれどその死つて
 らへるげはかなし
 戒めし香とたれ
 小井里氏まほりち
 お余やたまけは日がい乃
 らはとりさうか
 さまといおりの不
 どのさうあんなうさ
 まれなりうなふ





○張孝

偶值綠林兒代魚云瘦肥人皆在兄弟張氏古今稀

○張禮

張孝張禮の兄弟天下大ふきんとりたる本の実と拾ひ

八十の母とて食ふとて母の張禮の本の実と拾ひおぼしきこと
 むの飢つる母の張禮の本の実と拾ひおぼしきこと
 一がもふむの孝母みて今日来食とてはる本の実と拾ひおぼしきこと
 まらむ母おまつてはるおまはる一物来とてはるおまはる一物来
 来り一族までもこのいふまで母おまはるて道めて後彼とてはる
 る兄の孝とてはるより来りておまはるてはるおまはるてはる
 助け玉といふおまはるてはるおまはるてはるおまはるてはる
 孝子と教人すはとて来りてはるおまはるてはるおまはるてはる



○田真

海底紫棚棚群芳惣不如春風花満樹兄弟復同居

○田廣

いふ人更出うりお孝けおして足分ひつまいお親おかれ

○田慶

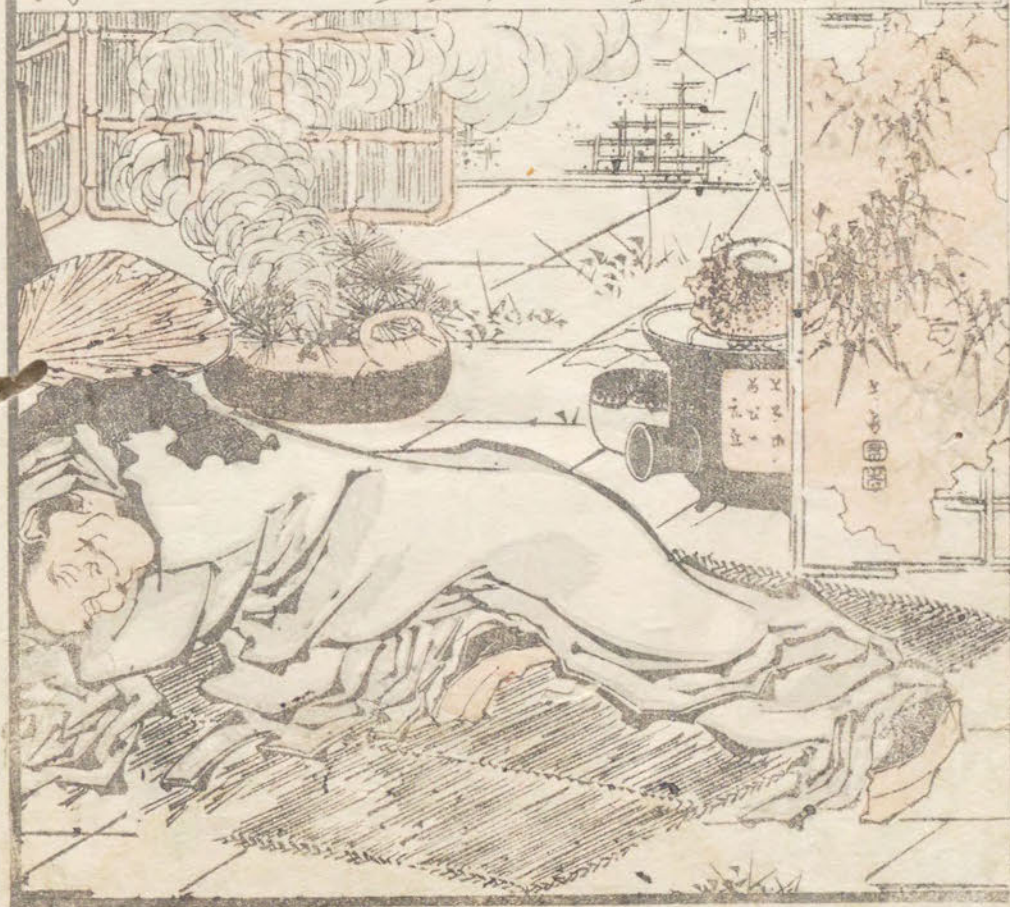
城富しくく三つあはけてとれるる庭前ふい木新樹とらふ遠き

後合々出りて夜内てふれば大木枯るるまおんはとぞも日えんといや
 かちしきれうとてふる人止てまてふるまてふるやとそ分んといや
 ああうりーぶまのえのてふるめとてふる花てぬ実のうてふる
 さうへりうてふるふい木てふるを親れ名まをささんふて
 ねとあはけうとてふるまてふるふりさゆえあたりやぞ

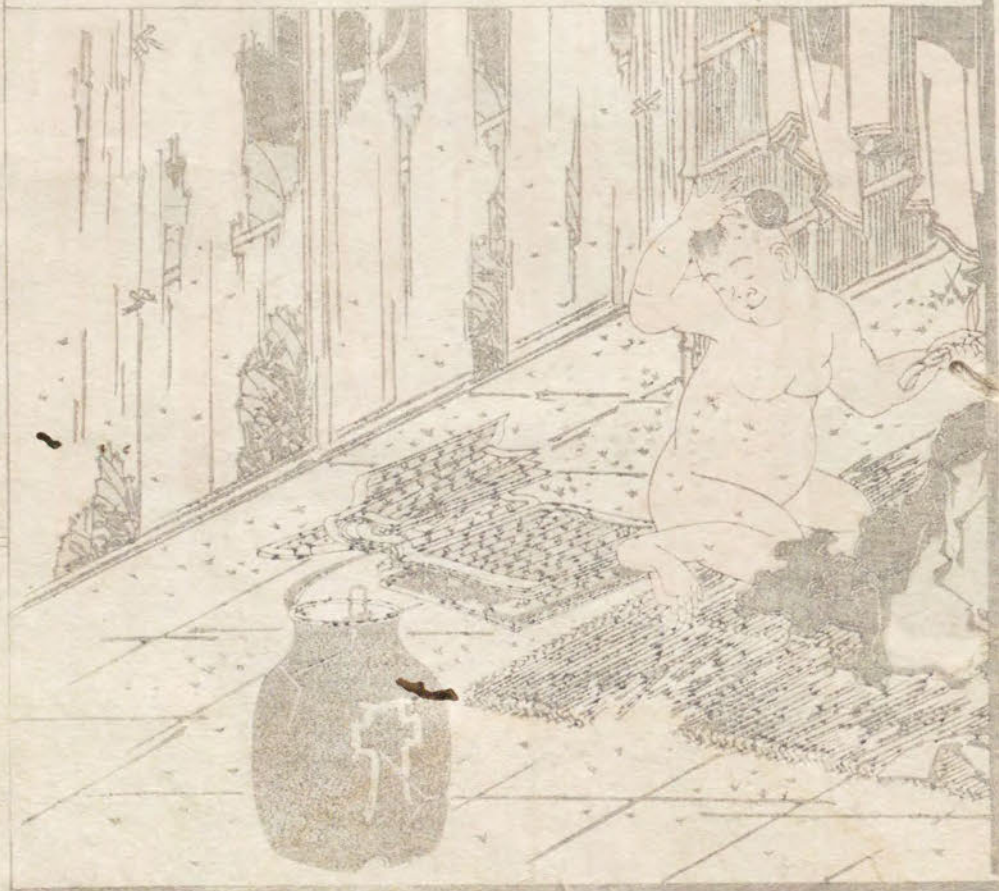
○ 吳 猛

夏夜無帷帳蚊多不散揮
 怒渠膏血飽免使入親闈

吳猛八歳の時より孝んふ
 くらんふれども家まづ
 一くよらん心ふまりせざ
 まるる夏の夜も帷帳さへ
 るて蚊とふでてまら
 ざりしうも吳猛うづ
 赤いさうふりりり
 きぬとおやのともをふけ
 てふがふと蚊ふさでさる
 蚊もさうふあれておや
 とぞさうざらべしとやりし。



つとても夜もさうさ
 ぎと蚊さうささうお
 のさ人蚊のゆめやうふ
 うらもさうささういのは
 おふささう蚊のさあふ
 あくまさうささうさ
 もいさうささうおやと
 したさうささうささう
 そのおやふ事さうさ
 うさうさうささうさ
 不孝ふさうささうさ
 おさうささうささうさ
 るさうささうささうさ
 お洞さうささうささうさ
 ふくるさうささうさ





○山谷

貴顕聞天下平生孝克親汲泉消溺笑婢妾豈無人

山谷采芣の侍あり今ありて結家の司といふ人そて未破の才あり
家ありまゝのくけりいまもつらねれども自母の大小便のつとめを
免あつてけしきあるはむづろきとあり清りて母あり人
つてせざるのゆゑされどいふと知るべきなり限るべき事
るれ其外のゆゑありてはる山谷孝克天下に知られえよ
くけりあるはむづろきとあり清りて母あり人
とぞ大衆のいふに代ふありて孝ありあやこけけきと
るづろきあり中て世にるづろきありるぞとの
と孝中の孝ありて中中の睡るれをありるふえりるべ



輯者

浪華長暮里

南里亭其樂

補輯

畫土

東都

葛飾戴斗

葛飾戴斗

彫工

山崎庄九郎刀



文政二年己卯八月發兌

書林

全	全	浪花	尾陽	東都	京都
河内屋	河内屋	塩屋	永樂屋	山城屋	吉野屋
嘉助	太助	忠兵衛	東四郎	佐兵衛	仁兵衛

